

2年社会科学習指導案

日 時 平成29年11月9日(木) 4校時
学 級 2年A組(男子14名 女子 11名 計25名)
指導者 教諭 佐々木 良一

1 単元名 第5章 開国と近代日本の歩み 1近代革命の時代②

2 単元について

(1) 教材観

本単元は、『学習指導要領解説社会編』歴史的分野の内容「(5)近代の日本と世界」の「ア欧米諸国における市民革命や産業革命、アジアの諸国の動きなどを通して、欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことを理解させる。」にあたる。「市民革命」「産業革命」「アジア諸国の動き」について代表的な事例をとりあげるようにしている。

現在、国外で起こっている多様な国家同士の課題は産業革命以後のヨーロッパ社会の影響が大きい。手作りの器械的製造物から動力を利用した機械的工業製品を安価に大量に生産することが可能となり、資源を確保するためと、製品を売りさばく市場の確保を目指してヨーロッパはアジア・アフリカを目指した。「産業革命」を世界にさきがけて到達できた主要因の一つに「市民革命」の成立があげられる。「市民革命」を経過する中で考えられた政治システムや法体系などは現代においても近代国家機能の中核を支える機能となっている。

日本も明治以降、国家の近代化を目指すことになるが、生徒たちが後に学ぶ明治近代国家が目指した欧米の国家システムはどのような経緯で成立していったのか、また、「人権宣言」などの具体的文献資料を通して、現代に通じる人権思想が生まれたことにも気づかせたい。

(2) 生徒観

本学級のNRTテストの調査結果は次の表の通りである。

内 容		正答率		全国比 (全国=100)
		2年A組	全国	
観 点 別	社会的な思考・判断・表現	55.8	54.5	102
	資料活用の技能	59.4	58.4	102
	社会的事象についての知識・理解	54.8	58.2	94
領 域 別	世界の様々な地域	57.7	58.7	98
	原始から古代の日本	53.0	60.0	88
	中世の日本	57.1	50.6	113

2年生において10月に実施された平成29年度岩手県学習定着度状況調査の「生徒質問紙調査」のデータから見ると「社会の勉強は好きですか」という質問に対し「好き」「どちらかといえば好き」が76%、「よく分かる」「どちらかといえば分かる」が96%と社会科という教科に対しては好意的にとらえている生徒が多い。しかし、学年の正答率は48.3%と高いとは言えない。

NRTテストと岩手県学習定着度状況調査から2年生全体を見ると、歴史的分野の定着度が低い。特に古代から中世にかけての基本的学習事項が欠落しているところが多い。一問一答の知識を問う問題にはその時は対応できるが(その時は覚えているから)、知識と知識のつながりが希薄、あるいはないため時間と共に忘れ去られ、断片的な学習のかけらが残っているだけになっている。教科に対してはよい印象を持っているので、そのことを生かしながら今まで学習してきたことを授業を通して再構築し、これからの授業に取り組んでいきたい。

(3) 指導観

中学の歴史分野において世界史に係わる教材は、日本史と関連づけるのはなかなか難しい。本単元では世界の近代史の後に幕末・明治の日本について学習することになるので明治の近代

化がなぜ欧米の近代社会を目指したのか、その必然性についてこの単元を通して気づかせたい。また、この単元には「ワシントン」「ナポレオン」「リンカーン」「西郷隆盛」「坂本龍馬」など魅力的な人物が多く登場するので、写真や文献資料を効果的に使いながら授業を進めていきたい。

3 単元の目標

1 節 欧米の進出と日本の開国

(1) 指導目標

- ・欧米諸国のアジア進出を近代革命、産業革命、アジア諸国の動きなどを通して理解させる。
- ・開国から江戸幕府滅亡までの過程を、欧米諸国の動きと関連させて理解させる。
- ・開国の影響とその後の幕府政治の推移について多面的・多角的に考えさせる。

(2) 単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての 知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・欧米諸国の近代革命や産業革命に関心を持ち、近代国家の成立やその後のアジア諸国への大きな影響について、意欲的に追究している。 ・開国の影響から江戸幕府の滅亡までの過程について関心を高め、意欲的に追究している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパのアジア侵略について、その理由や背景を多面的・多角的に考察して公正に判断し、適切に表現している。 ・開国の影響とその後の幕府政治の推移について、政治面・経済面・社会面から考察して公正に判断し、適切に表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・欧米諸国とアジア諸国の動きについて、資料を収集して読み取ったり、年表にまとめている。 ・開国の影響とその後の幕府政治の推移について、追究し考察した過程や結果をまとめている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出していった経過を理解し、その知識を身につけている。 ・開国から江戸幕府滅亡までの経緯を理解し、その知識を身につけている。

4 単元の指導計画と評価規準

第5章 開国と近代日本の歩み

1 節 欧米の進出と日本の開国（9時間）

時	学習内容	評価規準
1	章の導入	<ul style="list-style-type: none"> ・これから学習する時代について関心・意欲を高めている（関心・意欲・態度） ・資料の読み解きや比較から、この時代の特色を考えようとしている。（思考・判断・表現）
2	1 近代革命の時代 ・ヨーロッパの動向 ・イギリス革命 ・アメリカ合衆国の独立 ・啓蒙思想	<ul style="list-style-type: none"> ・欧米諸国の近代化の様子に興味を持ち、意欲的に追究している。（関心・意欲・態度） ・欧米諸国が近代革命を経て近代国家を形成していった過程を理解し、その知識を身につけている。（知識・理解）
3	・フランスの絶対王政 ・フランス革命	
4	2 産業革命と 19 世紀のヨーロッパ ・産業革命 ・資本主義と社会主義	<ul style="list-style-type: none"> ・産業革命を経て、産業や社会の仕組みが大きく変化ことを多面的・多角的に考察し、適切に表現している。（思考・判断・表現） ・革命の時代を経て近代国家を確立する動きがヨーロッパ諸国

	・19世紀のイギリスとドイツ	に広がっていく過程を理解し、その知識を身につけている。(知識・理解)
5	3 ロシアとアメリカの発展 ・ロシアの拡大 ・アメリカ合衆国の成長	・アメリカ合衆国には成長の一方で、先住民の強制移住や黒人への人種差別などの問題があったことを多面的・多角的に考察し、適切に表現している。(思考・判断・表現) ・ロシアとアメリカ合衆国が領土を拡大し、発展していく過程を理解し、その知識を身につけている。(知識・理解)
6	4 ヨーロッパのアジア侵略 ・ヨーロッパとアジアの力関係 ・アヘン戦争と中国の半植民地化 ・インドの植民地化	・ヨーロッパ諸国のアジア侵略について、その理由や背景を考察し、表現している。(思考・判断・表現) ・ヨーロッパのアジア侵略に対するアジア諸国の対応を、グラフや地図から読み取り、年表にまとめている。(技能)
7	5 開国と不平等条約 ・ペリーの来航 ・不平等な通商条約	・ペリーの来航から日米修好通商条約の締結に至る過程を調べ、適切に表現している。(思考・判断・表現) ・条約の内容や不平等な点を理解し、その知識を身につけている。(知識・理解)
8	6 尊皇攘夷運動と開国の影響 ・尊皇攘夷運動の高まり ・開国の経済的影響 ・世直し一揆とええじゃないか	・尊皇攘夷運動の高まりや開国の影響を調べ、開国によって日本が資本主義社会へ組み込まれていったことを考察し、適切に表現している。(思考・判断・表現) ・開国の経済的影響を人々の生活との関わりから理解し、その知識を身につけている。(知識・理解)
9	7 江戸幕府の滅亡 ・倒幕への動き ・大政奉還と王政復古	・開国の影響とその後の幕府政治の推移について、政治面・社会面から考察し、公正に判断し表現している。(思考・判断・表現) ・開国の影響とその後の幕府政治の推移について、資料を収集し、読み取ったりまとめたりしている。(技能)

5 本時の指導

(1) 本時の目標

フランスが、「フランス革命」を通して近代国家を形成していった過程を理解する。

(2) 本時の評価規準

観 点	「概ね満足」と判断される状況（評価方法）	支援を要する生徒への手立て
知識・理解	フランスに王政がなくなった理由について当時の社会情勢を考慮しながら説明できる。	教師の補助発問や周囲の生徒との話し合いにより、フランス社会の変容に気づかせる。

(3) 研究との関わり

○授業場面での学習サイクルの指導

前時の復習や課題設定については生徒の興味・関心を高めるような視聴覚教材を取り入れるよう心がけている。スライドを使った復習教材は一度作れば繰り返し使用でき、また、2度目、3度目と回を重ねる毎に改良を加えて資料提示ができる利点がある。

○学びを振り返るためのシートの工夫

学習プリントでは単位時間毎に自己評価欄を設け、理解度を自己評価させている。プリントの最後に「学習の振り返り」欄を設けて復習が必要な部分や理解を深めたい箇所などを記述させて

いる。

○学習習慣・学習内容の定着を図るための学習サイクルの指導

毎週、木曜日が社会の課題を出す日に設定されており、「社会の自主学習」の本誌とノートを使い学習事項の定着に取り組んでいる。普段の課題は「ノート」を使い、テスト前に「本誌」を使って2度同じ問題に取り組ませている。

(4) 本時の展開

段階	学習内容	生徒の活動	○指導上の留意点・支援 ●評価
導入 (10)	1 既習事項の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・啓蒙思想家3人について確認する。 ・本時の学習課題を把握する。 イギリス、日本、フランスの中で「王」がないのはどこか。 ⇒フランス ・フランスに「王」がないのはなぜか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・出身地や著作についても確認する。
	2 学習課題の確認		
	学習課題 フランスに王政がなくなったのはなぜか？		
	3 予想をたてる	<ul style="list-style-type: none"> ・「フランス革命」が起こったから 	
展開 (30)	4 「フランス革命」が起こった背景について	<ul style="list-style-type: none"> ・国民が重税を課された ・財政の赤字 ・他国との戦争に負けた等 ・啓蒙思想の平民への浸透など ・フランスにも王政があったことを「ルイ14世」「ベルサイユ宮殿」を参考に、「絶対王政」についてまた、風刺画から当時の社会情勢について理解する。 ・「フランス革命」の経過について説明を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「第一身分・第二身分」と「第三身分」の差について気づかせる。(資料：教146「革命前のフランス」) ・(資料：「バスチーユ牢獄の襲撃」「テニスコートの誓い」) ・人権宣言とアメリカ独立宣言の類似性について気づかせる。(資料：「人権宣言」と「アメリカ独立宣言」を提示)
	5 フランスの「絶対王政」について		
	6 「フランス革命」の経過		
	7 「フランス革命」がヨーロッパに与えた影響を与えたのか確認	<ul style="list-style-type: none"> ・フランス革命後のヨーロッパの動きをまとめる。 (1) 人権宣言の発表 (2) 国王(ルイ16世)の処刑 (3) フランスへの干渉戦争 (4) ナポレオンの登場⇒皇帝になるも最終的には退位 	
終末 (10)	8 まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・「フランス革命」「絶対王政(王)」「第三身分」という用語を使い、学習課題について文章でまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●フランスに王政がなくなった理由について当時の社会情勢を考慮しながら説明できる。(知識・理解)
	「フランス革命」が起こり、「第三身分」の勢力が大きくなり、「絶対王政(王)」が倒されたため。		
	9 振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りを学習シートに書く 	

6 板書計画

学習課題 フランスに王政がなくなったのはなぜか。

